

「青年海外協力隊」

吉澤

YOSHIZAWA Masato

雅人

高い自給率の影に主食偏重  
栽培品目の多様化で農家を豊かに

アフリカの中で、食料自給率が比較的高いといわれるザンビア。しかし、主な農産品はシマの原料となるトウモロコシに偏っていて、換金作物の栽培拡大が課題だ。

シマは、トウモロコシの粉を練って作るザンビアの主食だ。この国ではシマと一緒に、肉や魚や豆の煮込み、野菜の炒め物などのおかずを食べる。「でも、農村部では肉の割合がガクッと減り、野菜とシマだけを食べているのをよく見かけます。季節によっては、塩

# JICA Volunteer Story

PROFILE

高校卒業後、民間企業に就職。その後、世界の課題に興味を持つようになり、2013年12月から青年海外協力隊(野菜栽培)としてザンビアで活動中。

## 「国際協力は自分次第、地球の裏でキノコ作り」

NPOのスタディーツアーをきっかけに、世界の環境問題や社会問題に興味を持った吉澤雅人さん。農産品の種類が少ないザンビアで、キノコや蜂蜜など、農家にとってお金になる作物の定着に力を尽くしている。



で味付けしただけのシマを食べていることもあり「まず」と、吉澤さんは言う。農家は、収入源、特にトウモロコシが栽培できない乾期に栽培できる作物を常に探している。そこで、目を付けたのが、湿度を保つためのわずかな水があれば栽培できるキノコや、高品質のものならば高く売れる蜂蜜など、富裕層に人気の高い商品作物だ。

実は、ザンビアでキノコ栽培に取り組む協力隊員は、吉澤さんが初めてではなく、以前からキノコの栽培普及に向けた取り組みが続いている。先代の協力隊員から活動を引き継いだ吉澤さんが力を入れているのは、現地の人々自身の力でキノコ生産に必要な「種菌」を作ることだ。「現時点では、首都ルサカのザンビア大学か、ここカサマの研修所では、種菌が手に入らないのが、キノコ栽培普及のネックになっています。種菌がほかの地域の研修所などでも作れるようになれば、キノコ栽培はもっと普及するはずです」と吉澤さんは話す。

一方、蜂蜜については、農家もお金になるという認識は持っているが、収穫やその後の処理が適切に行われていないのが課題だ。そこで、以前から協力隊員と一緒に仕事をしてきた現地職員と協力してワークショップなどを開いている。

「エリートじゃなくても何かできる」  
スタディーツアーで自分が変わった

今は朝早くから研修所に通って農業協力を精を出す吉澤さんだが、昔から国際協力や農業に興味があったわけではなかった。高校卒業後、就職して社会人として働いていたときに、たまたま見た「サハラ砂漠を緑化する」というテーマのテレビ番組で環境問題に興味を持ったのが、世界に目を向けるきっかけだ。その後、



a. 取り出した蜂蜜をろ過し、商品として売れるものにする。このプロセスが品質に大きく影響する  
b. 収穫の終わった菌床は、捨てずに水に浸ければもう一度キノコが発生する。こうした知識を伝えるのも、吉澤さんの仕事だ  
c. ミツバチの巣箱の内検。協力隊が何代にもわたって引き継いできた巣箱には、ノウハウが詰まっている  
d. 蜂の巣から蜜を取り出す「圧搾」。長い積み重ねが形になる瞬間だ

NPO主催のベトナム・カンボジアへのスタディーツアーに参加し、ほかの参加者たちとそれまで知らなかった国際協力や環境問題の話をしたことで、自分の意識が変わっていったという。

帰国後は、地元にある別のNGO関係者と共に農業を始め、アフリカのスタディーツアーにも参加。「たった3週間の旅でしたが、全てが新鮮で、価値観が大きく変わりました。その中で、僕にも何かできるんじゃないかと思って、帰国後に協力隊に応募したんです」と吉澤さんは振り返る。

苦手な英語に苦戦しながらも派遣されたアフリカの地、ザンビア。アフリカの中では比較的雨量が多く、穏やかな人が多いこの国を、吉澤さんは過ごしやすい土地だと感じている。その一方で、現地には、珍しい東洋人への警戒心を持っている人もいて、「毒キノコを売りに来ている」とうわさを立てられたり、捨てるものを高く売りつけられそうになったりすることもあった。「それでも、この新鮮なキノコがこの値段は安いね」と言ってくれるお客さんがいると、うれしくなります。つたない現地語であいさつすれば笑顔で返してくれますし、半年ぶりに訪れた店でもみんなが自分のことを覚えていてくれるんです」という。今は、協力隊員抜きでキノコの栽培や種菌の生産を続けられる仕組みを作ることが目標になっている。帰国後は、改めて大学で勉強するつもりだ。

全ては自分の姿勢次第、という吉澤さん。昔は「協力隊なんて、エリートが参加するもの」と思っていたという。「でも、実際はどんな人でも参加できるし、参加すれば今までと違う世界が見えて、出会ったことがない人とのつながりが持てるチャンスになります。ぜひ、思い切って参加してみたいですね」と笑顔を見せた。



キノコの発生室をチェックする吉澤さん。地元農家のための新たな収入源作りを目指している